2022 年 4 月 8 日 札幌北高等学校入学式

祝辞　父母と先生の会会長　山中康裕

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。また、入学生の保護者のみなさまにも、心よりお祝い申し上げます。このような立派な入学式が、学校関係者の皆様の努力のおかげで、出来たことを嬉しく思います。これから3年間、新しい学びが始まります。

今年に入ってからも、オミクロン株による急激な流行により、受験する際もご苦労されたと思います。新型コロナ感染症対策の基本は、マスクと手洗いと言われています。「何故、手洗いをするの？」という問いに対して、みなさんはどのように答えますか？　おそらく、ここに居るみなさんも「コロナウィルスを含んだ飛沫が付いた物を、手で触れてしまうから」と答えるだろうと思います。この当たり前と思う知識も、実は、今から 100 年余り前に人類が発見した知識なのです。

1846 年、オーストリアの医師センメルヴェイス・イグナーツが手を洗うことが効果的な感染症対策になることを発見しました。そのことが、1890 年代に入って、一般市民にも伝わっていきました。北海道大学の前身である札幌農学校が設立されたのが 1876 年。その頃、人々は手洗いの有効性を知ったのです。

つまり、人々が手を洗うのは、法律で罰せられるからではなく、その有効性を理解したからです。このことを、「サピエンス全史」や「ホモデウス」で知られる歴史家ユヴァル・ノア・ハラリが指摘しました。ジョン・スチュアート・ミルが 1859 年に書いた『自由論』の一節「毒物を一律に禁止するのではなく、その有効性と有害性を人々が理解するようにすべき」という考えに共通しているものと私は思います。国家による制限よりも、人々が理解できるような教育が大切ということです。

ハラリは、世界が今、「全体主義的な監視」か「市民の権限強化」の選択を迎えており、この「手洗い」こそ、「全体主義的な監視態勢を敷くのではなく、むしろ市民に力を与えることで、私たちは自分の健康を守り、新型コロナの感染拡大を阻止すること」を選択できる、と主張しています。

また、EU の母と言われるドイツのメルケル前首相は、「私たちの社会は民主主義なのです。何かすることを強いられるのではなく、知識を共有し積極的な参加を促進することによる繁栄なのです。」と説明してから、国民にコロナ対策をお願いしました。彼女が東ドイツの「国家による監視体制」を経験しているからこそ出た言葉だと思います。

もう一つはナイチンゲールの話です。彼女は、1853 年～1856 年に行われたフランス・イギリス・オスマン帝国がロシアと戦ったクリミア戦争に従軍しました。まさにウクライナの地で、傷病兵を献身的に看護し、赤十字運動の機運を作りました。そして、彼女は、データを論拠として「戦争で傷ついて死ぬ人よりも、病院での感染症によって死ぬ人の方が多い」ということを、世の中に知らしめていきます。世界を変えたのは、統計学を武器にした若き女性だったということです。

小学校・中学校では、義務教育として、社会で生活していく際に役立つ知識や技能を身に付けます。すなわち、身近で具体的なもの。まさに「手を洗いましょう」という答えです。その一方、大学では、学問体系に位置づけられた高度な知識や技能を身に付けます。すなわち、教養(リベラルアーツ)というものです。「ひとり一人の何気ない行動が民主主義を守る」というのもその答えのひとつです。

さて、高校は、中学校と大学を繋ぐ役割があります。みなさんは、基礎教科をしっかりと学んで下さい。歴史に裏付けされた学問体系による学びです。例えば、数学では、初等関数を習います。指数関数や対数関数は、コロナ新規感染者数の変化を理解する基礎となります。英語は、世界を知るツールです。今ではニューヨークで行われる国連のイベントも、インターネット経由で、世界の人々とともにリアルタイムで聞くことも出来ます。私も、昨年行われた国連食料システムサミットのグテーレス事務総長の演説を午前0時半から聞きました。世界を知ることは、自分たちのアイデンティティ、自分たちの良さ・弱さ・強み・直すべきことを知ることにもなります。歴史総合は、温故知新。ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとして、世界はどうなっていくのかを考える基礎となります。

もう一つは探究です。知識はインターネット上に溢れています。世界的な有名大学のオンライン講義にも参加して、知識を得ることも出来ます。大学院は研究するところです。世界最初の大学院の原型は、北海道大学と同じく 1876 年に設立された米国ジョンズ・ホプキンス大学と言われています。ジョンズ・ホプキンス大学は世界中のコロナ感染者数等のデータを提供している、ある意味で私たちにとって身近な大学です。今年から新学習指導要領の下、全ての高校で探究の視点が導入されました。つまり、100 年余り前に大学院で始まった研究が、高校でも当たり前になったのです。

また、わたしたちの知る義務教育や近代大学は、ジョン・スチュアート・ミルにも影響を与えたプロイセンのヴィルヘルム・フォン・フンボルトが 1807 年より始めた教育改革が原型とされています。つまり、200 年前に始まった学校制度も、今では私たちにとって当たり前なのです。

世界は今、グローバル化や AI 化、そしてパンデミックや戦争と、激動の時代を迎えています。グローバル企業、国家、個人、それらの間での義務と自由のせめぎあいが起こっています。

みなさんには、しなやかに対応する力が求められています。それは、自分を語る論理、相手を知る傾聴、互いを語る対話、仲間で取り組む協働等です。まさに、北高の校訓「寛容・進取(しんしゅ)・良識」は、それらを北高らしく語るものです。みなさんは、22 世紀に繋ぐ世代として未来を作っていって下さい。

以上、PTA 会長としてのみなさんへのエールの言葉とさせていただきます。改めて、本日は、ご入学おめでとうございます。